

終活

ご存知ですか？シリーズ⑩ —65歳からの肺炎予防は？— 肺炎死亡者の 97・9%は65歳以上



市から「肺炎球菌ワクチン接種」の案内が届きました。新型コロナウイルスは分かりますが、肺炎球菌とは何なのでしょうか。

Q 肺炎球菌って一体どんな菌？

A 140年前、肺炎を契機に発見され、球状の菌であることから肺炎球菌と呼ばれています。この菌に感染すると、肺炎だけでなく中耳炎や髄膜炎も発症します。血液を通して全身にこの菌が回ると、生死にかかわる敗血症にも罹患します。

肺炎球菌は「莢膜」という分厚い膜に包まれ、細菌を攻撃する白血球から逃れられ、体内により深く侵入する性質をもつ怖い細菌です。

Q この菌はどの感染タイプなの？

A 肺炎球菌は、高齢者の3〜5%の鼻や喉に棲息しています。主

に子どもの鼻や喉に存在し、咳やくしゃみによつて周囲に飛散。その菌を吸い込んだ大人たちへと拡散し、感染することで成人が発症していると考えられます。

免疫機能が低下し体力が落ちてきた高齢者、心臓病・糖尿病など基礎疾患のある人は肺炎球菌が肺へ侵入しやすく、肺炎に罹患するリスクが高くなることが指摘されています。

Q 肺炎球菌以外で肺炎になる原因は？

A 肺炎で亡くなる人の97・9%は65歳以上です。また肺炎になる原因は肺炎球菌が最多というデータもあります。

肺炎には病原性微生物によつて引き起こされる「感染性肺炎」と、薬剤やアレルギーなどによる「非感染性肺炎」の2種類があります。

なかでも、感染性肺炎は病原性微

生物の種類により①細菌性肺炎②ウイルス性肺炎③非定型肺炎に分類されます。

また、高齢者に多いといわれる誤嚥性肺炎は「非感染性肺炎」の機械的肺炎に区分されています。

Q 誤嚥性肺炎って高齢者がなりやすいの？

A 誤嚥性肺炎とは、唾液や飲食物などが誤つて気管に入り、その唾液や食物に含まれた細菌などが肺に入り込んで炎症を起こすことです。

高齢者が誤嚥するのは、老化による嚥下（食べ物などを飲み下す）機能の低下によるものです。気管に入った食物残渣などを咳で外に吐き出す力が弱くなっているからです。唾液に含まれる肺炎球菌などの細菌が原因で死に至ることもあります。

Q 肺炎球菌感染症を予防する方法は？

A 肺炎球菌感染症の治療にはペニシリンなどの抗生物質を使いますが、重症化しなければ多くは回復します。高齢者や基礎疾患のある人は重症化防止のため、肺炎球菌ワクチンを

接種する方法があります。しかし同ワクチンの接種率は、前期高齢者で40%、後期高齢者で20%と低迷しています。

接種後5年間は有効との観点から、65歳以上は5年間隔で接種でき、初回の自己負担額のみ公費助成（定期接種）で4300円です。詳細は、各区役所の健康相談コーナーにお問い合わせを。

		代表的な病原体	主な症状	主な治療法
感染性肺炎	細菌性肺炎	肺炎球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌などの細菌	湿った咳、黄色や緑色を帯びた痰	抗菌薬
	ウイルス性肺炎	インフルエンザウイルス、水疱ウイルス、新型コロナウイルスなど	一般的な風邪の症状。激しい咳、高熱、倦怠感	確立されていない（ウイルスには抗菌薬は無効）
	非定型肺炎	マイコプラズマ、クラミジアなどの微生物	乾いた咳が長く続く	抗菌薬
非感染性肺炎	機械的肺炎	誤嚥性肺炎など	いずれも咳、発熱、喀痰、息切れ、倦怠感などの症状	抗菌薬
	薬剤性肺炎	抗ガン剤、抗生物質など		ステロイド薬
	アレルギー性肺炎	リウマチ肺など		ステロイド薬